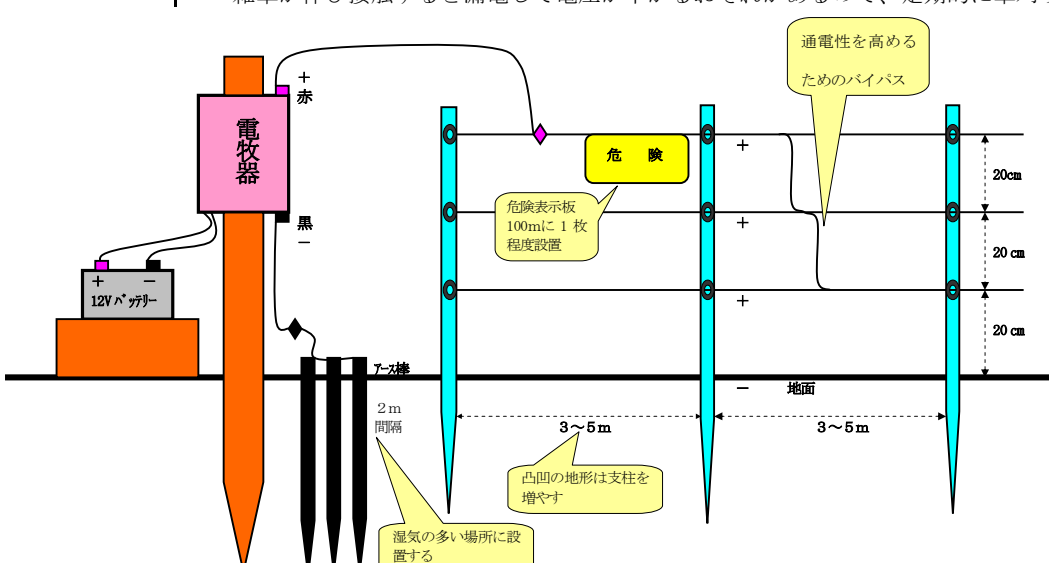


18. 鳥獣害防止対策

作物名と鳥獣名	耕 種 防 除	薬 剤 防 除			
		使用時期・薬剤名	濃 度	使用回数 使用方法	備 考
作物全般：鳥類	1. 加害期間を通じて、おどしを設置する。加害開始後のおどしの設置は効果が低いため、加害開始直前（水稲：出穂直前、大豆：発芽直前等から複数のおどしを圃場外縁部に重点をおいて目立つように設置する。 2. おどしは、時々移動させる。おどしの種類を変える等の方法により変化をつけると、鳥のおどしに対する慣れが抑制できるので、効果が高まる。	—	—	—	—
稲：スズメ	【主なおどしの種類（周辺住民に配慮して選択すること）】 ① 視覚：かかし（マネキン）、防鳥テープ、目玉風船、反射板、鳥の模型など。 ② 聴覚：花火類、爆音機 ・ がん具用煙火を鳥獣の追い払い用を使用する場合、火薬又は爆薬10g以下のロケット花火を1日に200個以下を使用するのであれば、都道府県知事の許可は不要だが、200個を超えて使用する場合は、都道府県知事の許可が必要である。 ・ 爆音機を使用する場合は、「香川県爆音機対策ガイドライン（20年4月23日付け、環境森林部長・農政水産部長）」に従い、周辺住民等に配慮する。 ③ 触覚：糸類、ピアノ線、粘着剤 ④ 味覚：登録薬剤 ⑤ 嗅覚：登録薬剤 3. 集団栽培、一斉播種により、被害を分散させる。 4. 防鳥網で覆う。 5. 大豆は小面積の場合、移植栽培する。 6. タバコの後作大豆は、タバコの葉の隠ぺい効果により、被害が軽減できる。 7. 被害の甚だしい場合は、所定の捕獲手続きを経て捕獲する。	播種前・アンレス	10倍	1回 種籾を浸漬（1～2分）し、風乾後播種する。	1. 他剤での種子消毒はアンレス使用前に行う。 2. アンレスはチウラムを含む薬剤との重複使用は行わない 3. 鳥の状態や周辺環境により、薬剤の効果がふれるので耕種防除を併用する。
稲：スズメ、ハト、キジバト、カラス、カワラヒワ 麦類：ハト、キジ、スズメ いんげんまめ、えんどうまめ：ハト、カラス、キジバト 豆類（未成熟）、豆類（種実、ただし、いんげんまめ、えんどうまめを除く）：ハト、カラス ひまわり、ひまわり（種子）：カラス、ムクドリ、ハト 雑穀類（とうもろこしを除く）、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム：カラス、キジ、ハト、キジバト、ムクドリ、スズメ	1. 環境の改善 ① 田畑周辺の里山の整備や耕作放棄地の雑草を刈り取り、イノシシが出没しにくい環境をつくる。 ② イノシシを誘引する里山の柴グリや管理を放棄したカキやビワ等果樹類は伐採する。 ③ 水稲収穫後は速やかに耕起し、落ち穂をすき込むとともに二番穂が発生しないようにする。 ④ イモや野菜は収穫残渣が残らないように耕起する。 2. 侵入防止柵の設置 ① 電気柵 通電ワイヤーを、柵状に設置したもので、電気ショックによりイノシシを撃退する心理柵。これは、学習によって柵を回避するようになった野生動物の心理を利用した防護柵である。 ・ 柵の高さは、地面から20cm間隔で3段張りとする。 ・ 雑草が伸び接触すると漏電して電圧が下がるおそれがあるので、定期的に草刈りを行う。	播種前・キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg当り 原液20ml	1回 塗沫処理	1. チウラムを含む薬剤の重複使用は行わない。
稲、麦、野菜、果樹、いも類：イノシシ	 イノシシの侵入防止用電気柵の基本（電牧線3段張り）				

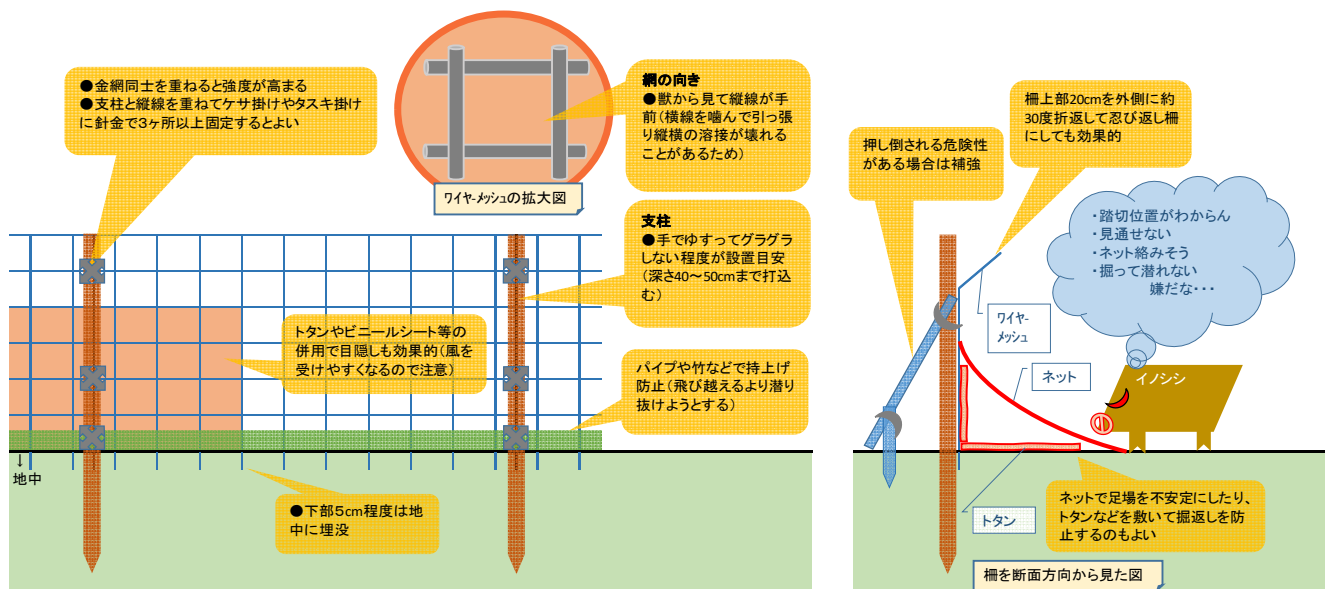
【電気柵の施設における安全確保について】

1. 電気柵を施設した場所には、人が見やすいように適度な間隔で危険表示板を設置する。
2. 電気柵は、次のいずれかに適合する電気柵用電源装置から電気の供給を受ける。
 - イ 電気用品安全法の適用を受ける電気柵用電源装置
 - ロ 感電により人に危険を及ぼすおそれのないように出力電流が制限される電気柵用電源装置であって、次のいずれかから電気の供給を受けるもの
 - (イ) 電気用品安全法の適用を受ける直流電源装置
 - (ロ) 蓄電池、太陽電池その他これらに類する直流の電源
3. 電気柵用電源装置（直流電源装置を介して電気の供給を受けるものにあつては、直流電源装置）が使用電圧30V以上の電源から電気の供給を受けるものである場合において、人が容易に立ち入る場所に電気柵を施設するときは、当該電気柵に電気を供給する回路には次に適合する漏電遮断器を施設すること。
 - イ 電流動作型のものであること。
 - ロ 定格感度電流が15mA以下、動作時間が0.1秒以下のものであること。
4. 電気柵に電気を供給する回路には、容易に開閉できる箇所に専用の開閉器を施設すること。

② ワイヤメッシュ柵

近畿中国四国農業研究センター（西日本農研）で考案された柵で、土木建築工事などで使用されるワイヤメッシュ（溶接金網とも呼ばれる）を物理的侵入防止柵として利用するもの。

- ・目合い10cm以下のワイヤメッシュを使用する。
- ・線形5mm以上のワイヤメッシュを使用する。
- ・高さ1mから1.2m確保する。（忍び返しにすれば高さ約1mでも効果的である。）
- ・イノシシは地際の際間から侵入を試みるので、隙間なく設置する。



ワイヤメッシュ(金網)柵の設置のポイント

③ ネット柵

- ・のり網や専用のネットを柵状に張り、イノシシの侵入を防止する。
- ・柵の下から潜り込まないように、ネットの裾を外側に50cm程度垂らす。
- ・柵の高さは、イノシシが飛び越えにくいように、1mから1.2m程度とする。
- ・のり網柵は、二重に張ると効果が高い。

④ トタン柵、シート柵

- ・トタン板、ビニルシートなどを柵状に設置し、物理的にイノシシの侵入を防止する。
- ・柵の高さは、イノシシが飛び越えにくいように、1mから1.2m程度とする。
- ・柵の継ぎ目や地面との間に隙間があるとイノシシが潜り込むことがあるので注意する。

稲、麦、野菜、果樹、いも類：サル

1. 環境の改善

- ①サルを誘引する里山の柴グリや管理を放棄したカキやビワ等果樹類は伐採する。
- ②水稻収穫後は速やかに耕起し、落ち穂をすき込むとともに二番穂が発生しないようにする。
- ③イモや野菜は収穫残渣が残らないように耕起する。
- ④家庭の生ゴミを田畑や山に捨てない。
- ⑤可愛いからといって、サルに餌を与えない。

2. 追い払い

サルを見たら直ちに花火、犬等を使って追い払い、人や農地は怖いものと学習させる。

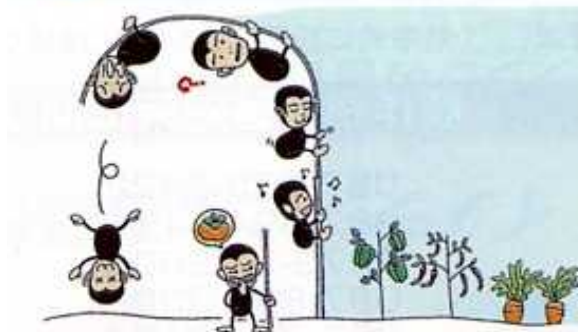
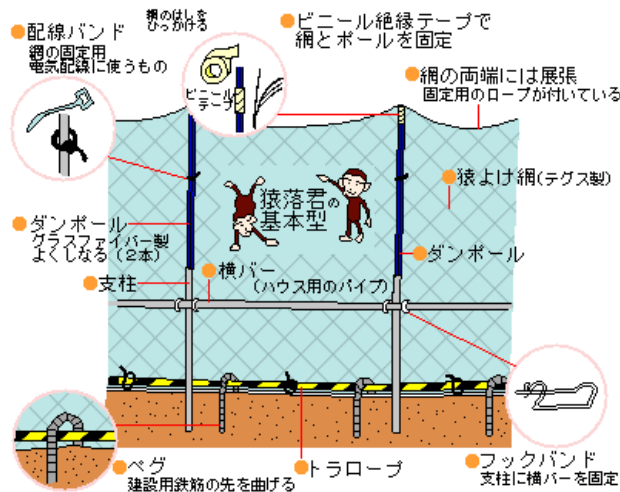
3. 侵入防止柵の設置

①猿落君

絡まりやすいテグス網と支柱に弾力性のあるダンボールを使い、サルへの侵入・脱出を困難にして、ほ場のえさ場価値を下げるために設置する柵。

- ・ネットの裾を確実に固定するとともに、継ぎ目は重ね合わせる。
- ・サルの学習程度に合わせ、「ヒサシ」を設置するなどして侵入防止効果を高める。
- ・設置場所選びのポイント

- ①ある程度人の気配のある見晴らしの良い圃場
- ②山に接していない圃場
- ③柵の周囲に侵入を助けるもの（木や建物など）のない圃場



猿害防止柵「猿落君」(奈良県資料より)

【主な材料】

鉄パイプ、ダンボール、猿よけテグス網、トラロープ、ペグ、ビニールテープ、防鳥テープ

【作業手順】

- ①ほ場周囲に2m間隔で直管パイプを打ち込む。
- ②支柱に地上30～40cmの高さで横バーを固定する。
- ③ダンボールを2本1組とし、先端から10cmのところまでビニールテープで束ね、支柱に差し込む。
- ④支柱の足元にトラロープを巡らせ、ペグで地面に固定する。
- ⑤ダンボールの先端部にビニールテープで猿よけ網を固定する。
- ⑥網の下部をトラロープに固定する。
- ⑦出入り口を作る。

野菜、果樹：アライグマ・ハクビシン

1. 環境の改善

- ①収穫しない果実や落下した果実は農地に残さず、埋設など適切に処理する。
- ②家庭から出た生ゴミ、廃棄果実を農地や庭先などに放置しない。
- ③農地周辺にある用水路や排水路などは、アライグマやハクビシンの移動経路になるため、落ち葉や枯れ葉、枯れ枝などが堆積しないよう清掃する。

2. ねぐらをつくらせない

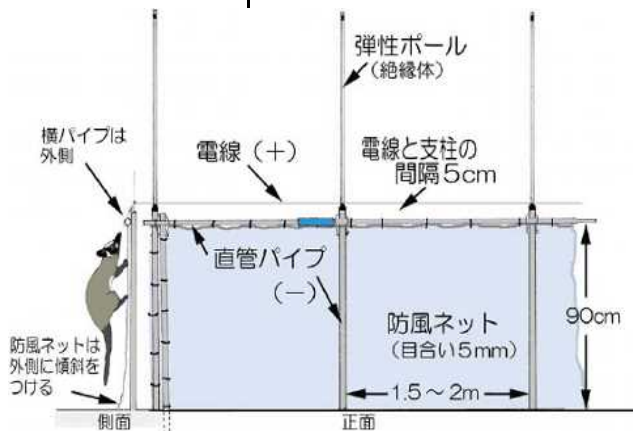
農地の近くの倉庫や空き家などにねぐらをつくることが多く、ねぐらがエサ場への前線基地となるので、早めに発見し取り除く。

3. 侵入防止柵の設置

① 電気柵

- ・イノシシの項参照
- ・柵の高さは、地面から10cm間隔の3段張りとする。
- ・アライグマやハクビシンの歩行時目線は地上5～10cmと低いので、最下段の電線と地面の間に大きな隙間を作らないようにする。（特に起伏の多い地形では支柱をこまめに入れる。）

② 中型動物侵入防止柵「白落君」



（出典）古谷益朗著「ハクビシン・アライグマ
おもしろ生態とかしい防ぎ方」（農文協）



※防風ネットのすそは、直管パイプに巻き込み
パッカーで留める。（香川型改良「白落君」）

19. 野その防除

耕 種 防 除	薬 剤 防 除		
	薬剤名	使用量	使用方法
1. 施設栽培の場合、1cm程度の隙間からでも侵入するため、ハウスの隙間を見つけて塞ぐ。 2. ハウスの入口付近及びイチゴ棚の周辺に不要な資材を置かないようにし、野その隠れ場所及び棚上部への侵入経路をなくす。 3. 粘着シートやネズミカゴを設置し、捕獲する。	ヤ ソ デ オ ン	200～300g/10a	1. 手まきによる防除 a) 本剤10～20gをそのまま、あるいは10～20gの小袋詰をそ穴に投入するか、野その通路に配置する。また、休耕地等は10m×10mの格子状に本剤をそのまま、あるいは10～30gの小袋詰を1個所20～30gの割合で適宜配置する。 b) 本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰をそ穴に投入するか野その通路に配置する。また、果樹園、桑園等は5m×5mまたは4m×4mの格子状に1個所に本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰を1袋配置する。 2. ベイトボックスによる防除 10aあたり、ベイトボックス約4個を適宜配置する。1個あたり本剤50g～70gを使用する。
	粉 末 ラ テ ミ ン	250～750g/10a	本剤1gに対し穀粉など4gの割合でおすすめ、250～750g/10aの割合で使用する。 1) 5～20gをそのまま、または紙等で包み、そ穴に投入する。 2) 10～100gをベイトボックスに入れ、適宜配置する。
	ネ ズ コ 粒 剤	250～500g/10a	本剤約10粒を紙包みとし、そ穴に投入する。使用量は通常10aあたり、本剤250～500gとなる。毒餌施用後は、喫食箇所に対して、3～5日間連続配置する。
	サンケイクマリン	300～600g/10a	本剤20gを入れた防湿性小袋をそのまま野その通路に配置する。または、給餌器に入れ、野その出没する場所に配置する。なくなったら補充して、4～5日間連続投与する。